

平成29年10月20日
公益財団法人原子力安全技術センター

平成29年度放射線取扱主任者試験問題の記述の誤りについて

「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条の規定に基づき、平成29年8月23日及び24日に実施した第1種放射線取扱主任者試験において、試験課目「化学のうち放射線に関する課目」問29の問題文の記述に誤りがありました。詳細は別紙のとおりです。このため、当該問題の採点においては受験者全員を正解として得点を与える処理とさせていただきます。

なお、当該試験の合格者は、官報で公告されるとともに、下記の当センターホームページに掲載いたします。

(公財) 原子力安全技術センターホームページアドレス [<http://www.nustec.or.jp/>]

今回の事案により、受験者の皆様をはじめ、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後このような事案の再発を防ぐため、事案の発生原因を究明するとともに、より一層試験問題の確認体制の強化をはかる所存であります。

以上

本件の担当

公益財団法人原子力安全技術センター
放射線安全部 主任者試験グループ
雑賀 寛、八木 洋

TEL 03-3814-7480

(別紙)

平成29年度 放射線取扱主任者試験

第1種 化学

化学のうち放射線に関する課目

問29 フリッケ線量計を ^{60}Co の γ 線で30分照射したところ、 Fe(II) が溶液1g当たり 1.6×10^{-5} g 生じた。 γ 線の線量率 [$\text{Gy} \cdot \text{h}^{-1}$] に最も近い値は次のうちどれか。ただし、 Fe(II) 生成のG値を15.6、鉄の原子量を56、アボガドロ定数を $6.0 \times 10^{23} \text{ mol}^{-1}$ 、1 eV を $1.6 \times 10^{-19} \text{ J}$ とする。

1 35

2 70

3 170

4 350

5 700

問題文において、正しくは「… Fe(III) が溶液1g当たり…、 Fe(III) 生成のG値…」と記述すべきところを、誤って「… Fe(II) が溶液1g当たり…、 Fe(II) 生成のG値…」と記述しました(下線部)。

当該問題は選択肢4(350)を正答としておりましたが、問題文の記述に誤りがあり、結果として解を得られない問題となりました。